

「住みよい環境を守り育て 次の世代に引き継ぐ」を合言葉に

山梨県甲府市

七覚しちかく自治会

私たちが住む「七覚」は、甲府盆地の南端、御坂山系の北側で、甲府駅からは車で30分程度、中央自動車道甲府南インターチェンジからは5分のところにある中山間地域で、甲府市右左口町うばぐちにある世帯数66戸、人口は200人の自治会です。

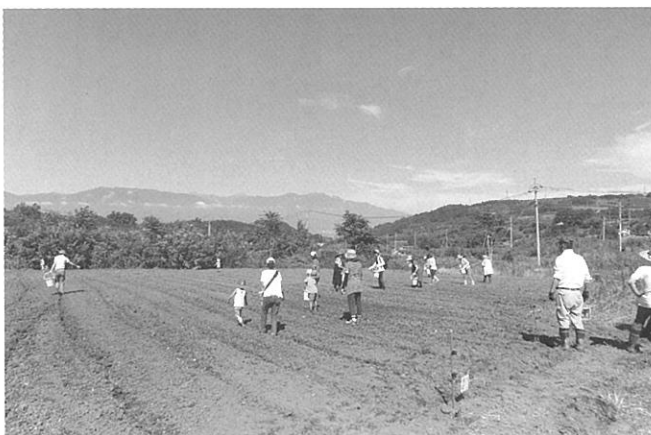
かつてこの地域は全国屈指の養蚕地帯でしたが、傾斜地の農地が多く、養蚕業の衰退とともに耕作放棄された桑園がジャングルと化し個人では手に負えなくなり、景観が悪く生活環境は悪化の一途でした。そんな中、緊急雇用経済対策事業により耕作放棄地の解消が進み、良い景観が戻ったことから、「この状態を維持し、さらに良い景観を創り出し次の世代につなぐことが大切で必要なことだ」と、平成24年5月28日に自治会員すべてが構成員

となる「七覚むらづくり協議会」を設立し活動しています。

活動の状況と成果について

①耕作放棄地対策

傾斜地のために機械導入ができずに耕作放棄された集落周辺の農地の草刈り作業を会員総出で行っています。雑草は一年に最低3回は刈り取りしないと大変なことになってしまします。また、活動開始と同時に耕作放棄地の一部約50アールほどには、梅や栗の苗木を植えて集落営農的なことを試行しましたが、現在は地域内に新たに発足した「農業生産法人」が管理しています。



解消された耕作放棄地に、景観形成のために皆でそばの種を蒔きました。幼児からベテランまで皆が参加して種蒔きです



②蕎麦まつり

解消された耕作放棄地に、会員が景観形成のために秋そばの種を蒔きました。台風などの災害に遭わずに秋には立派なそばの実が採れたので、その収穫祭として「蕎麦まつり」を行ったのが始まりです。「男組」という若い世代が大きな防災用のガス釜3基を使ってそばを茹で上げ冷水でめます。「すみれ会」という60代前後の女性グループと「つぼみ会」という若いお嫁さん世代グループとが協力して天ぷらを揚げ、そばつゆをつくり、持ち寄った薬味を刻んで、ざるそば風にきれいに盛り



収穫したそばの実を「七覚そば」にして皆でいただきました。実行委員の皆さんは食べる間もソソソにアトラクションが始まりました

付けします。温かいそばも用意します。会場いっぱい100名くらいが「七覚そば」を堪能します。

普段は家に閉じこもり気味の高齢者も「男組」が車いすで迎えに行くので会場は幼児から90歳代まで「老若男女」が七覚自治会集会所に集合します。

食事の後には女性グループが日ごろのハモニカ練習の成果を如何なく発揮し、県寿マスター人材バンク登録の芸達者さんを招いてマジックショーや落語などで大笑いします。12月初旬の会場は温かく大きな歓声で、しばし師走の寒さも忘れていきます。

③世代間交流・みんなでバーベキュー

世話をする人がいなくなった集落の真ん中にある45アール100本あまりの梅畑を「むらづくり協議会」が草刈りや剪定などの管理をして、梅を販売した売上金を活用して、みんなでバーベキューをします。農業の先輩から未経験の若者にしっかりと剪定講習をします。男性会員が脚立に上り梅の木の剪定をします。その間、いつも活躍してくれる「すみれ会」や「つぼみ会」が美味しい焼き肉を用意してくれます。2時間程の剪定作業の後、整えられた梅の木の下で、鉄板を囲んで世代間交流が始まります。正月の寒い時期ですが、剪定枝を燃やした暖かさ、少々のお酒で内

と外から温まります。



機械を駆使して耕作放棄地にならない活動をしています

④その他の活動と成果

- ・ 私たちが子どもどころ駆け巡った権現山に散策路を復活させました。
- ・ 桜の苗木100本を定植して、害虫・下草等を管理しています。(宝くじ助成事業)
- ・ 先進的に活動している組織や地域の視察研修を毎年行っています。
- ・ 新規就農のために神奈川県から3人家族一



集落の入口花壇には毎年花の苗を植えています

活発な活動を続けるためには、30〜40代の若い世代の力や女性の参画が必要です。その

「ウバグチハッピー村」

お知らせの重要なツールともなっています。現在61名が参加していて、自治会からのグループには参加フリーで、10代から60代まで

- ・LINEグループ機能を活用して会員相互の情報交換や情報共有を図っています。グループには参加フリーで、10代から60代まで現在61名が参加していて、自治会からの
- ・耕作放棄地を有効活用するための「竹の子組合」が有志13名で発足。
- ・自治会内に農事組合法人2組織が耕作放棄地解消にも活躍しています。

世帯及び滋賀県から単身で若者が定住。（男性2人は消防団に加入して活躍している貴重な人材です）

ためには、世代を超えてなんでも言い合える、どんなことでも相談できる環境づくりが大切だとの考え方で活動しています。また、一つの活動の中でも誰にでも気軽に参加してもらえる工夫もしています。河川や道端の草刈活動にも「刈払い機」という機械が使えない高齢者や女性も参加してくれます。そのため、草刈り作業の他に花壇の手入れなどの軽作業も用意して、女性でも参加しやすい環境づくりをしています。

一方、山梨地域には「無尽」という文化があります。同じ世代、同じ環境もしくは同じ役職経験などの仲間が定期的に集まり情報交換や交流する会ですが、地域内で組織している無尽会は自治会活動に積極的に関わってくれます。七覚自治会集会所を会場としている「無尽会」が今でも4団体あります。前出の「すみれ会」、「つばみ会」、「八日会」と、私が所属しています60代世代の「二十日会」です。

この四つの無尽会にも増して、現役消防団世代の「男組」が様々な活動の原動力となっています。これは自治会集会所をだれでも気軽に利用することができる仕組みを創ってきた先輩たちのフィインプレーだと思っています。因みに、「男組」とは、おそらく他地区にはない珍しい組織だと思えますが、七覚地区に伝わる「小正月のどんと焼き」、「春の蚕影山祭典・こどもまつり」と「秋の五社神社神輿の

渡御」などの祭りを主導するために活動して半世紀の歴史がある組織です。

以上、ここ2年は新型コロナウイルスの影響で草刈り程度の活動しかできていない状況ですが、地域づくり活動を始めて10年が経過しようとしている七覚むらづくり協議会の活動を中心にレポートしました。今では他地区のママ友から「七覚はまとまりがあつていいね。みんな楽しそうに活動している」とよく言われるそうです。

（七覚自治会 会長 山崎光昌）



集落の真ん中に100本以上もある梅畑で、収穫のために剪定した後、少し寒いですが世代間交流（野外BBQ）の始まりです（みんなでバーベキュー）